

経営比較分析表（平成29年度決算）

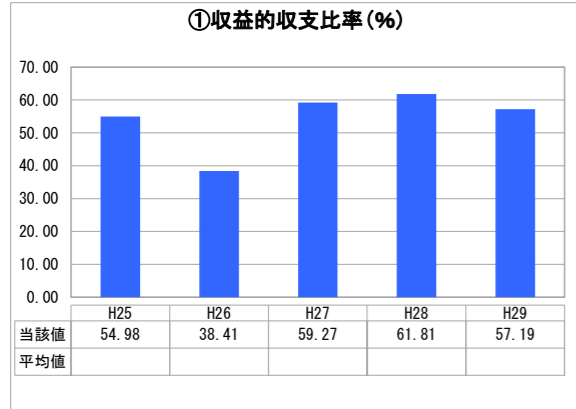
岩手県 野田村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	漁業集落排水	H2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	2.42	73.21	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
4,315	80.80	53.40
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
104	0.15	693.33

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



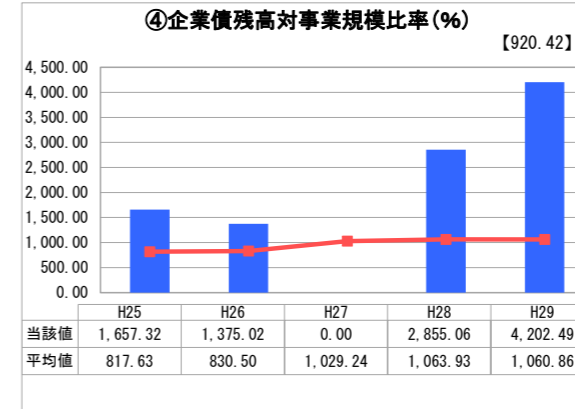
「単年度の収支」



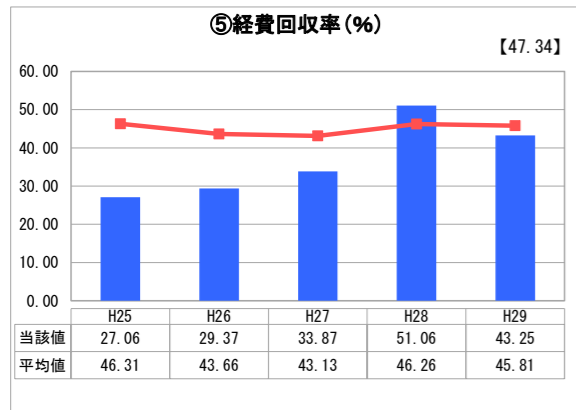
「累積欠損」



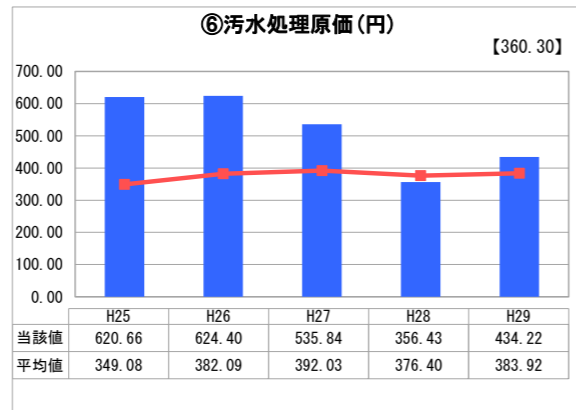
「支払能力」



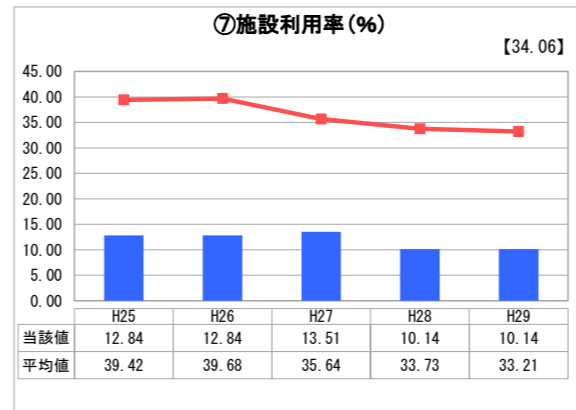
「債務残高」



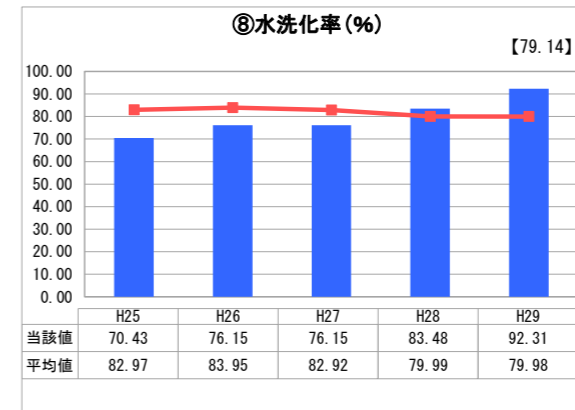
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

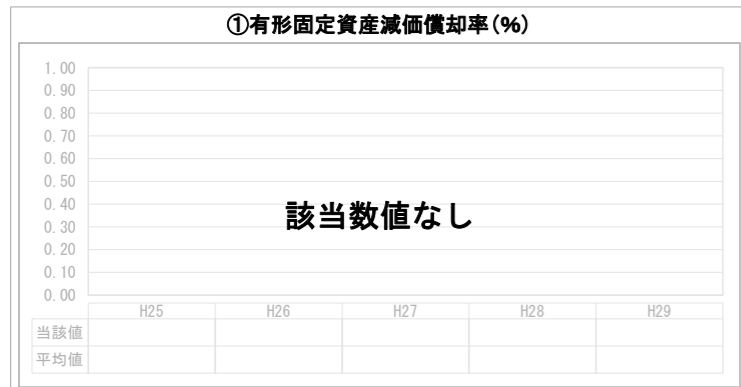


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

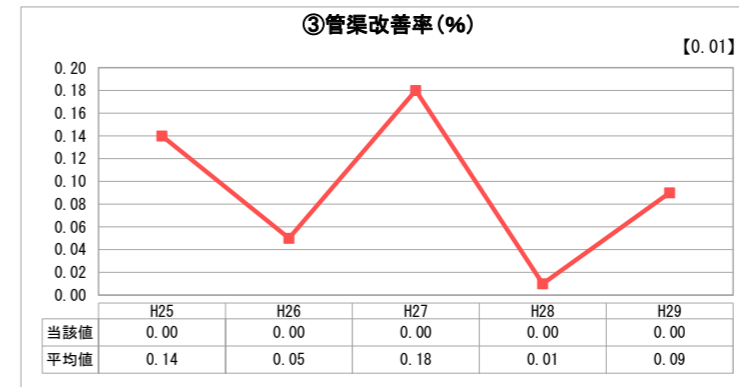
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、地方債償還金が比率の低迷原因と考えられます。企業債残高対策事業規模比率については企業債の発行が増えたことが原因ですが、今後の償還により、下がるものと見込まれます。経費回収率及び汚水処理原価については、類似団体と同程度で、今後も更なる向上に努めます。施設利用率は類似団体より低い傾向にあります。人口減少による使用者の減少などの要因もありますが接続率のさらなる向上に努めます。水洗化率は類似団体平均より上回りましたが、今後も、経費回収率の向上及び汚水処理原価の適正化のため、更なる水洗化率の向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

近年、東日本大震災及び災害復旧事業により施設が新設されているが、適期の老朽化対策に努めます。

全体総括

集落排水施設は水環境を守るために、今や不可欠な施設です。将来にわたり継続的に維持するために、適正な使用料収入の確保及び汚水処理経費の削減に努め、経営の健全化を図ります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。